

さいたま市長定例記者会見

令和6年10月3日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行        それでは、定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

                  それでは、記者クラブ幹事社、日本経済新聞社さん、進行よろしくお願  
いします。

○日本経済新聞    10月幹事社を務めます日本経済新聞です。

                  それでは、本日の会見内容について、市長から説明をよろしくお願  
いたします。

○ 市 長        皆さん、こんにちは。

                  暑さも和らぎ、過ごしやすい季節となりました。この時期、市内では様々  
なイベントが開催されています。その中でも特に私にご紹介したいイベン  
トが各区で行われる区民まつりです。今週土曜日の南区区民まつりを皮切  
りに、10区それぞれで地域の特色を生かした祭りを開催します。

                  先陣を切る南区では、「楽しもう！ふれあい世代間交流」をテーマに、大  
人だけではなく子どもも楽しめる企画をご用意しています。会場である浦  
和競馬場ならではのポニー乗馬体験や、今年から新たにさいたまブロンコ  
スと連携したバスケット体験コーナーも設置しました。

                  他の区でも、来場される皆様が楽しめる企画を地域の皆様と一緒に考え  
ながらをご用意していますので、ぜひ楽しんでいただきたいと思います。毎  
年多くの皆様でにぎわう区民祭りは、企画の段階から区にお住いの皆様や  
事業者の皆様にご協力いただき、開催しています。ご協力いただいている  
皆様には、改めて感謝を申し上げたいと思います。ぜひ多くの皆様にお祭  
りを楽しんでいただき、地域の魅力を感じていただきたいと思います。

                  それでは、議題に入ります。

## 市長発表：議題1「J:COM presents 2024 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」開催まであと1ヵ月！～同日に関連イベントも開催します～

それでは、議題1「J:COM presents 2024 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム開催まであと1ヵ月！～同日に関連イベントも開催します～」についてご説明します。

さいたまクリテリウムは、世界で初めてツール・ド・フランスの名を冠した大会として、2013年の初開催から今大会で記念すべき10回目を迎えることになりました。

ツール・ド・フランスで活躍した世界のトップライダーによるレースを間近で観戦できるだけでなく、「さいたまるしえ」や「サイクルフェスタ」など誰もが楽しめるイベントが同時開催され、大会当日は、さいたま新都心駅周辺一帯が非日常の空間に包まれ、毎年市内外から多くの方にご来場いただいています。

この12年間ではコロナ禍により2度の中断もありましたが、皆様に支えられながら開催を続け、ついに今年メモリアルイヤーを迎えることができました。記念すべき10回大会を迎えられたことを喜ばしく思うとともにこれまで支えてきてくださったさいたま市民や自転車ファン、関係者の皆様、全ての皆様に感謝をお伝えしたいと思います。

今大会は、節目となる10回記念大会ということで、その名にふさわしい新たな仕掛けや様々なイベントを多数用意しています。自転車ファンもそうでない人も、これまでの歴史の中で一番に盛り上がる、そしてみんなでお祝いできる大会になることを期待しています。

初めに、先日出場が決定した選手についてご説明します。海外招聘選手や国内参加選手など9月27日時点で58名の出場が決定しました。

また、海外招聘選手のうち、さいたまクリテリウム歴代優勝選手4名が出場することになっています。まず、1人目ですが、2013年大会で優勝し、4大会連続9回目の大会出場に加え、ツール・ド・フランスでは、2013年、2015年から17年のマイヨ・ジョーヌであるクリストファー・フルーム選手です。

2人目は、2015年大会で優勝し、ツール・ド・フランスでも活躍し

たジョン・デゲンコルプ選手です。

そして、3人目は、2017年大会で優勝し、ツール・ド・フランス2024ではステージ優勝を果たし、区間通算35勝という最多記録を持つマーク・カヴェンディッシュ選手。

そして、4人目は、さいたまクリテリウムに10大会連続出場し、2019年大会で優勝した新城幸也選手の出場が決定しました。

そして、2014年優勝のマルセル・キッテル氏は、大会アンバサダーとして参加します。

その他、海外招聘選手としては、ツール・ド・フランス2024で4賞ジャージの一つであるマイヨ・ヴェールを獲得したビニヤム・ギルマイ選手、今シーズンをもって引退を表明していますフランスのロマン・バルデ選手の3大会ぶり6回目の出場も決定しました。

海外招聘選手については、今後追加で発表する予定となっているので、楽しみにしていただきたいと思います。

続いて、今年もチーム帯同プランの販売が決定しました。このプランは、「海外チームに帯同できるスペシャルな体験！」をコンセプトに、世界で活躍するスーパースターと共に夢のような2日間を過ごせるプランとなっています。

前日は、バイクストレージの見学、ステージイベント、前夜祭への参加、大会当日は選手と同じバスで会場に移動し、レース前に選手と一緒にコースを走行できるオープニングイベントへの参加もできることになっています。そのほかにも選手ピットエリア付近での交流やレース観戦ができるなど、プレミアムな体験型特典となっています。

詳細は、近日中に大会公式ホームページでお知らせしたいと思います。

次に、国内選手をご紹介します。まずは、今年全日本選手権個人タイムトライアルで優勝、ロードレースで2位となった埼玉県出身の群馬グリフィン、金子宗平選手が3大会連続で出場します。さいたま市出身のさいたま佐渡サンブレイブ、小泉響貴選手も選抜チームの一員として出場します。

なお、さいたま市を拠点の一つとして活動するさいたま佐渡サンブレイブがチームとして初出場することも決定しました。地元チームの活躍にも

ぜひご期待ください。

また、パリオリンピックトラック競技の日本代表であるチームブリヂストンサイクリングの窪木一茂選手も参加するなど、国内外で活躍する選手達が揃いました。

次に、女子、男子ジュニア選手をご紹介します。まずは、パリオリンピックトラック競技日本代表である、近年の活躍が目覚ましい垣田真穂選手をはじめ、ジュニア全日本選手権U17で優勝経験がある辻洗之介選手など、これからの日本ロードレース界を担う若手選手達が7名参加します。

また、パラサイクリング選手は、先月のパリパラリンピックで2大会連続となる金メダルを獲得し、自身が持つ金メダル最年長記録を更新した杉浦佳子選手をはじめ、川本翔大選手、藤田征樹選手、木村和平選手など、パラリンピックに出場した実力者が揃いました。

次に、10回大会を記念した「SPECIAL ACT supported by J:COM」の詳細が決定したので、ご説明します。

先日発表しましたが、ステージイベントには、注目のパフォーマンス集団、アバンギャルディが出演し、ダンスパフォーマンスを披露します。また、「J-POP CLASSIC CLUB TOKYO」によるパフォーマンスも行われます。

このJ-POP CLASSIC CLUB TOKYOは東京音楽大学で、ピアノ、声楽、弦楽器、打楽器、作曲を専攻する学生有志が集まって結成された団体です。70年代から90年代のJポップの大ヒット曲をオーケストラに編曲して、歌と楽器で演奏することが特徴です。「J-POPとクラシックの融合」というコンセプトの下、中高年の人には懐かしく、また若者には新鮮な名曲の数々になると思います。

また、ユーチューブの総再生回数は1,200万回を超え、チャンネル登録者数も4万7,000人を超えるなど人気を誇っているグループです。有名ホールでのコンサートは毎回発売と同時に完売し、入手困難となっている演奏会を会場でぜひ皆さんに楽しんでいただきたいと思います。

また、当日は「埼玉栄高等学校吹奏楽部」による演奏も行われます。J-POP CLASSIC CLUB TOKYOと埼玉栄高等学校吹奏楽部がコラボレーションした大会オリジナルファンファーレの制作も決定

し、大会当日の「SPECIAL ACT supported by J:COM」で披露することになりますので、ぜひお楽しみください。

また、観戦に市内小学校児童を無料で招待したいとの思いがあり、観戦希望者を募集します。詳細は前回の会見でも発表したとおりとなっています。10月7日10時から、さいたま市電子申請システムで申込みができます。

子どもたちには、ぜひこの機会に世界トップクラスの自転車競技を体感していただきたいと思います。

同日のさいたまスーパーアリーナ、コミュニティアリーナや展示ホールなどで、さいたまスポーツコミッションが自主事業で開催する「キッズクリテウム」について説明します。

「たのしい発見、笑顔がいっぱい！みんなのキッズクリテウム」をコンセプトにキッズクリテウムを開催します。このイベントでは3つのコンテンツが行われます。

1つ目は、子どもが主役のツール・ド・フランスさいたまクリテウム「キッズクリテカップ」。さいたまクリテウムのコースレイアウトを再現したコースを設定して、山岳賞やスプリント賞を設けるなど、本場ツール・ド・フランスの要素も取り入れたものとなっています。現在エントリー開始中で、10月12日が締め切りです。なお、定員に達し次第エントリーの受付は終了します。

2つ目は、様々な体験ができる「スポコミフェス」です。小学校低学年や未就学児等がダンスやスラックラインなど計25種目の体験をすることができ、スポーツの楽しさに触れる機会を提供するもので、チケット制となっています。10月3日12時より発売を開始しています。

最後に、クリテと一緒に盛り上げる「チアフェス」です。出演者や家族、観客が感謝を伝える「ありがとう」をコンセプトとして、キッズクリテウムレースの応援演技や大型映像、照明でショーアップされたステージで演技を披露します。

さらに、今大会では前回大会までに引き続き、SDGsに対する取組も行います。例えば、さいたま新都心駅掲出バナーを再利用して、障害者施設にて新たなグッズとして生まれ変わらせ、販売します。去年はメッセン

ジャーバッグやペンケースを販売しました。

また、協賛企業の株式会社カネカ様よりご提供いただいた地球にやさしい素材を使用したカトラリーをさいたまるしえやVIPラウンジで使用します。

大会当日のコミュニティアリーナやイオン浦和美園駐車場では、未就学児を対象としたランバイクの体験及び大会を実施するとともに、メインレース前のタイムトライアルレースに、女子・男子ジュニア選手、パラサイクリング選手の出場枠を提供します。

このほかにもツール・ド・フランスさいたまクリテリウムでは、SDGsにつながる取組を積極的に実施します。

また、当日は「サイフルフェスタ」も10時から17時まで開催します。さいたま市の自転車政策の柱であります「たのしむ」、「まもる」、「はしる」、「とめる」の4つの視点をテーマに、ブースの設置や体験コーナー、ステージ等を設け、自転車ファンのみならず、小さいお子様からご年配の方まで多くの方が楽しめるイベントとなっています。例年、人気のイベントである子どもの自転車レースの「キッズロア」を今年も開催する予定です。普段は体験できない特設コースが魅力となっています。

また、タレントの稲村亜美さんをはじめ、たくさんのゲストをお呼びして、特設ステージでトークショーやパフォーマンスショーを行います。

最後はさいたまクリテリウムのパブリックビューイングを行います。ぜひ会場まで足を運んでいただきたいと思います。

次に、「さいたまるしえ」についてご紹介します。当日の10時から17時まで、けやきひろばで開催します。

さいたまるしえでは、「フランス市場」、「さいたま市場」、「さいたまクリテリウム協賛企業ブース」の3種類のブースが出展します。フランスの食をテーマとした飲食物やさいたま市のご当地グルメなど、多種多様な食を楽しむことができるほか、ワイン、シャンパンをはじめクラフトビールなども楽しめるので、大会当日は食の面でも皆さんに楽しんでいただけるのではないかと思います。

このように、クリテリウムと同日にイベントを開催し、さいたま新都心エリア全体で盛り上がりをつくっていきたいと考えています。

また、サイクルフェスタ、さいたままるしえ会場では、決済方法の一つとして「さいコイン」が使用できます。事前に「さいたま市みんなのアプリ」をダウンロードし、デジタル地域通貨にチャージいただくと、当日スムーズに買い物ができます。

なお、初回1万円以上のチャージで2,000円分の「たまポン」が付与されます。キャンペーンを実施中、市外在住の方もキャンペーンの対象となっていますので、この機会にぜひ登録してください。

また、両会場ではダウンロードや使い方が分からない方へのサポート体制を整えておきますので、操作に不安のある方はご利用いただけます。

なお、サイクルフェスタ、さいたままるしえは昨年まで2日間の開催でしたが、今年は1日だけの開催になりますので、ご注意ください。

最後に、繰り返しとなりますが、今年は記念すべき10回大会となります。自転車ファンの皆様には、メインアリーナを通過するレースや本場ツール・ド・フランスで採用しているスタート方式など、これまでとは異なるさいたまクリテリウムを楽しんでいただければと思います。

また、これまでご来場いただけていない方でも、誰もが楽しめるイベントが多数開催されますので、ぜひさいたま新都心にご来場いただき、1日を目いっぱい楽しんでいただければと思います。そして、これを機に自転車、そしてスポーツへ興味を持つきっかけとしていただき、地元さいたま市の魅力の発見につながることを期待しています。11月2日は、ぜひさいたま新都心に遊びに来てください。みんなで大会を盛り上げていきましょう。

**お知らせ：パパママ応援ギフトがデジタル地域通貨で受け取れます！～今なら、3,500円相当の「たまポン」も付与されます～**

続いて、お知らせが1つあります。さいたま市みんなのアプリが7月末にスタートしたことに伴い、10月1日からパパママ応援ギフト（出産・子育て応援給付金）が行政給付として、初めてデジタル地域通貨でも受け取ることができるようになりました。デジタル地域通貨で受け取る場合、パパママ応援ギフトの支給額である5万円相当の地域通貨（行政ポイント）

に加え、今なら支給額の7%に当たる3,500円相当のたまポンを上乘せします。5万円分の出産・子育て応援ポイントについては、給付金の趣旨を鑑み、デジタル地域通貨の加盟店のうち、居酒屋、美容医療、不動産業などを除いた店舗で、約1,400店舗でご利用いただけます。ぜひこの機会に「さいたま市みんなのアプリ」をダウンロードしていただき、デジタル地域通貨でパパママ応援ギフトを申請いただくことで、出産育児関連用品の購入費用などにお役立てください。

また、さいたま市みんなのアプリでは、オンライン相談サービスも追加されたほか、電子申請・届出サービス、子育てWebと連携しています。スマートフォンから子育てに関する相談、また保育所など申請、情報収集もできますので、併せてご活用いただければと思います。

私からの説明は以上です。

## 議題に関する質問

○日本経済新聞      ご説明いただき、ありがとうございました。

市長のまず説明に対して、幹事社から1点質問させていただきます。今回クリテリウムというところは、スポーツを生かしたまちづくりを進められているさいたま市と基本的に相乗効果のあるイベントかと思います。また市外へアピール効果も高いと思います。そういった観点で、まさにスポーツを生かしたまちづくり、それから市外へのさいたま市のPR効果、それぞれの市長のお考えというのを改めて伺いしてもよろしいでしょうか。

○市 長      まず、さいたまクリテリウムについては、単独の大会としても経済波及効果、例えば去年の例でいいますと、35億9,000万円、(約)36億円の経済波及効果があり、また10億円ぐらいの広告効果がありました。そういう意味では、経済効果、そして市外への情報発信にも大変大きく貢献をしていると思っています。

そして、さいたま市はスポーツ振興のまちづくり条例に基づいて、その計画をつくっているところですが、その中でも自転車、サイクリングをされる方が近年非常に増えてきているという効果もあります。また、自転車、スポーツだけではなくて環境に優しいという面もあり、CO<sub>2</sub>の削減にも通じると考えており、これまで多面的な効果を発揮してくれていたのでは

ないかと思っています。

今年度については、毎年でありますけれども、ツール・ド・フランスの冠を持った大会、国際的な自転車レースです。目の前で世界のトップライダーたちが駆け引きをしながら走っていく、非常に日本の中では希少なイベントであると考えています。

それ以外にも非常にお祭りのな雰囲気もあり、あらゆる層が楽しんでいただける大会となっていますので、ぜひ多くの皆さんにご来場いただくとともに、私たちとしてもこの大会を通じて、先ほどデジタル地域通貨のお話もしました。地域での消費の拡大をより一層広げていきたいという思いや、マーケティング的に来場される方々がどこから来て、どういった年代層で、どのようにご利用いただいているかということも把握しながら、この大会の価値をより一層高めていきたいと思っています。

○日本経済新聞      ありがとうございます。

各社さん、マイクを使用して質問をお願いします。

○ 埼玉新聞          埼玉新聞と申します。

ご説明ありがとうございました。今回記念大会ということで、レースとかイベントとかで盛りだくさんだと思うんですけども、市長が一番推したいポイントというか、それを教えていただけますか。

○ 市 長          今回記念すべき10回大会ということで、これまでと違った取組が幾つかあります。1つには絞り切れないので、それを申し上げますと、今までさいたまスーパーアリーナのコミュニティアリーナを通っていましたが、今回はメインアリーナを使って、そこが会場となるのが1つ、それから2つ目はステージイベント、メインアリーナを使うので、室内での観客が多くなるということで、先ほどもお話ししましたが、アバンギャルディをはじめとしたステージイベントも大変充実していることが2つ目、3つ目は、今回記念すべき10回大会を迎えたので、これまで多くの皆様に本当にお世話になり、またご支援をいただき、ご協力いただいて開催できたことの感謝の思いも込めて、小学生の児童と保護者4,000名を招待させていただくこと、そしてもう一つ申し上げますとキッズクリテリウムです。本場のツール・ド・フランスを走っている人たちと同時に、子どもたちもそれを模したコースで走ってくれる、将来そこからまさにパリのシャンゼリゼ

通りを黄色いジャージを着て走ってくれる、この中からそういった子どもたちが生まれてくることを期待しながら、今年はこれまでにないイベントをやることにしています。

○ 読売新聞

読売新聞です。

クリテリウムの関係で聞かせてください。今の子供たちに対する期待感のお話もあったかと思うんですけども、この10大会を通じて、先ほどサイクリングしている人が増えているという発言もありましたが、自転車文化という点で市内の広がりというところで市長の感じているところなどありましたらお聞かせください。

○ 市長

自転車文化の広がりで言うと、これは定量的というよりは私の印象でお話をする、以前と比べてサイクルウェアを着て土曜日、日曜日にロードバイクに乗って走っている方の姿を本当に年々見る機会が増えてきたと思っています。特に荒川の河川敷等では、本当にたくさんの皆さんが走っていると感じています。私たちは、クリテリウムを開催するときに、クリテリウム自体はスポーツのまちづくりという視点と、もう一つ自転車のまちづくりもさいたま市は進めています。先ほどもお話ししましたけれども、「はしる」、「とめる」、「たのしむ」、「まもる」、この4つの視点から進めてきました。その「たのしむ」のところはこのクリテリウムは位置していますが、ただ楽しむという文化を広げるだけでなく、交通安全であるとか、走りやすい環境をつくることであるとか、あるいは、大分放置自転車もなくなってまいりましたけれども、そういったこと（放置自転車対策）にもきちっと対応し、市民の皆さんから受け入れられる自転車のまちづくりを進めていくことで、自転車の事故も大幅に減少し、駐輪場も充実しているところです。また、自転車レーンの整備も既にスタートから200キロ超えて216キロの整備がされていますので、（自転車の）事故は大幅に減っている状況です。

そういう意味では、このツール・ド・フランスさいたまクリテリウムという「たのしむ」の部分の事業と併せて、「とめる」、「まもる」、「はしる」、それぞれの事業へもプラスの効果をもたらしている。そして、自転車のまちづくりが着実に進んでいると思っています。

## お知らせに関する質問

- 時事通信      時事通信です。

お話ありがとうございました。パパママ応援ギフトの件なのですが、改めてデジタル地域通貨でも受け取れるようにして、さらにたまポンを上乗せするという狙いというか、意図と、あとはこれを利用される方への呼びかけをお願いいたします。
- 市長      さいたま市は、ご案内のとおり、0歳から14歳までの転入超過数、9年連続で全国第1位になっており、子育て世帯を中心に選んでいただいている都市になってきています。デジタル地域通貨を活用して、今回も5万円の応援ギフトに加えてプラス3,500円分相当のポイントを上乗せすることによって、全ての妊婦、また子育て世帯の経済的な負担のさらなる軽減を図っていくことが1つ、それから市内の加盟店でしか使えないたまポんで上乗せ給付することで、市内経済の活性化につなげていこうということが2つ目、そして3つ目は、先ほどもお話したが、子育て世代の方はスマートフォンを活用していろいろな手続きや情報収集をすることが多い世代です。そういった方々にできるだけ子育ての負担を、経済的な負担だけではなく、いろんな面での負担を減らしていくために、子育てWebというアプリや、電子申請、保育所の申込みであるとか、いろいろな手続きもスマホで連動させてできるようになっていますので、デジタル地域通貨という入り口もありますし、アプリを積極的に活用することで、子育てをされている世代の皆様により利便性を高くしたいという思いからポイントを上乗せし、活用していただくという狙いがあります。大きく3つです。
- 時事通信      呼びかけについても。
- 市長      特に子育てをされている皆さんには、ぜひこれを機会にさいたま市みんなのアプリをダウンロードして活用していただくことで、5万円相当分の応援ギフトプラス7%の3,500円分相当のポイントが上乗せをされますし、またそれだけではなくてさいたま市の子育てWeb、あるいはいろんな手続きが、スマホでできるような手続きと一緒にみんなのアプリを通じてできるようになりますので、ぜひご活用いただきたいと思います。皆さんに味方になるアプリだと思います。よろしく申し上げます。

## 幹事社質問：

### さいたま市のふるさと納税の獲得戦略、および市長の期待感について

- 日本経済新聞　それでは、続けて幹事社質問に移らせていただきます。
- 一般的に大都市圏では、なかなか不利な状況が続くとされるふるさと納税の獲得戦略でございますが、さいたま市は2023年度の寄附受入額が前年と比較して4倍以上に増えて6億4,000万円という規模になりました。さいたま市のふるさと納税の獲得戦略、年末にかけて駆け込みで寄附が増えると思いますが、そういったところを踏まえて市長の今後の期待感を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。
- 市長　ふるさと納税の受入れ拡大に向けては、返礼品の品目数を増加させることがまず大変重要であると考えていて、令和4年度から返礼品提供事業者の公募であるとか、あるいは個別開拓の実施、また全庁的なプロジェクト会議の設置など、返礼品の品目数増加に向けた取組を行ってきました。
- 返礼品の数については、公開準備中のものを含めた採用決定ベースで、令和3年度末には101品目でしたけれども、令和4年度末には325品目になりました。また、令和5年度末には625品目になりました。今年度は、8月末現在ですが、1,000品目を超えました。大幅に増加させています。
- この取組の結果、令和5年度の寄附件数は約1万5,800件、寄附金額は6億3,000万円となり、令和4年度と比較して、件数ベースでは約8.7倍、金額では約4.5倍の過去最高となったところです。一定の成果が出ていると考えています。
- 引き続き、返礼品数の増加に取り組み、本市に実際に訪れていただけるような体験型の返礼品の提供など、返礼品の魅力向上を進めていくことで、寄附受入額をさらに増加させていきたいと考えています。また併せて本市の魅力発信の強化や、あるいは地域産業の活性化、また交流人口を増やすということにもつなげていきたいと思っています。
- 日本経済新聞　ありがとうございます。市長今体験型の返礼品とおっしゃられたんですが、これは主に観光等の返礼品でいいでしょうか。
- 市長　これも現状で言えば、例えばマラソンの出場権とかもこの体験型の返礼

品に入っていますし、いろんなタイプの体験型のものをそれぞれの部署で企画していただいて、単に物だけではない別の価値を提供していこうということで、(体験型の返礼品を)増やしていく取組を行っているところです。

○日本経済新聞      ありがとうございます。

幹事社質問に関連して、各社質問ありますでしょうか。

ないようなので、それではその他の質問に移らせていただきます。

各社さん、質問をよろしくお願いたします。

### その他：自治体ブランドランキングについて

○産経新聞      産経新聞です。

10月2日に大東建託のいい部屋ネットが都道府県別の住みやすいまちランキングと同時に自治体ブランドランキング首都圏版2024というのを出したのですが、そこでさいたま市は18位で、1位は鎌倉市なのですが、埼玉はその上に秩父市と川越市、秩父市が14位、川越市が9位で入っているんですが、それに関する受け止めと、またさいたま市がもっと上位になるためには、昔からウナギとか有名ですが、あとうどんもおいしいと思うのですが、どういったPRを今後していくことがブランドイメージの向上につながるかということをお話してください。

○市長      私が今の自治体ブランドランキングの詳細について把握していないものですから、これは後ほど丁寧に答えさせていただければと思います。申し訳ありません。

### その他：県庁舎再整備のアンケート結果について

○時事通信      時事通信です。

県庁舎の再整備に関して、先日県が7月から8月に取ったアンケートの結果を公表されたのですが、現在地での建て替えよりも移転のほうが数が上回ったということで、それに関しての市長としての受け止めと、先日8月の下旬に要望書を提出されていたので、この結果を受けてさらに県側に要望をされていくなど、ご検討されていまして、教えていただければ幸いです。

○市長      私も報道で見ただけですので、十分ではありませんけれども、現在地で

の建て替えが34.9%で、移転を望む回答が42.9%だったと承知しているところです。その割合を住所別などで見ると、必ずしも県全体の県民の意向を正確に表しているものかどうかについては、ちょっと課題があるのかなと感じています。ただ、さいたま地域においては、現在地での建て替えを回答した方のほうが非常に多かったと聞いています。現在地での県庁舎再整備を望む声がさいたま市では非常に多いことを改めて認識したところです。

また、アンケート結果については、専門家会議の委員からも様々なご指摘があったと聞いています。本市としては、引き続き現在地で再整備をしていただきたいという立場は変わっていません。またさいたま市のいろいろな団体の方々も意思表示をしていきたいというお話もされているところです。いずれにしても、私たちの思いであるとか、そういったこともしっかりお伝えしていきながらご判断いただきたいと考えています。

## その他：さいたまマラソンについて

### ○ 読売新聞

読売新聞です。

さいたまマラソンについて聞かせてください。8月1日からランナーの募集を始めたと思うんですけども、2か月ぐらいたちまして、第2回大会ということで、1回大会よりはインパクトということでなかなか広報が難しいと思うんですけども、その辺りの広報戦略だったり、涼しくなってきた、走り始めている人もいらっしゃると思うので、そういう人たちにどう呼びかけていくかというところのお考えを聞かせてください。

### ○ 市長

ちょうどエントリー開始から2か月弱がたちまして、おかげさまで既に定員に達した種目もあります。前回以上に多くのランナーの方に既にエントリーをいただいている状況で、順調に推移していると考えています。

現在は、ランナーのエントリー促進に注力しつつ、コース上においてランナーに提供する給食提供品の調整であるとか大会グッズ作成、またフィニッシャータオルのデザインの考案等、大会当日を盛り上げていただけるステージイベントの検討なども行うなど、ランナーをお迎えする準備を着実に進めているところです。

また、9月5日からボランティアスタッフを募集しています。今大会よ

りボランティアリーダーを新設して、年齢条件を緩和しました。そして、小学生や中学生も参加が可能となり、ランナーや大会運営を支えていただける多くの方々にご参加をいただきたいと考えています。

運営側としては、昨年度の大会よりも満足していただける大会の開催を目指して準備を進めているところです。皆さんのエントリーをお待ちしています。あわせて、関連イベントの「さいたまマラソン in 埼玉スタ」においても現在エントリーを受付中です。10月15日までのエントリーのため、お早めにエントリーをしていただきたいと思います。

いずれにしても、マラソンの部は順調にエントリーをしていただいているところですが、大分残りも少なくなってきましたので、参加を考慮している方はできるだけ早くお申し込みをいただけるようお願いします。

○ 読売新聞 追加ですみません。改めてこの時期になってくると各マラソン大会の方たちがいろいろな発信をされると思うんですけども、その中でさいたまマラソンの特徴を押し出していく必要があると思うんですけども、市長から見て、このさいたまマラソンの特徴というか、ありましたらお聞かせください。

○ 市長 1回目のときに強調させていただきましたけれども、チャレンジする人を応援するマラソン大会にしようということでやっています。特に初めてマラソンの大会に出るという方々を含めまして、この大会でタイムを出したいとか、あるいはこのマラソンを完走して、これから自分の人生を変えたいとか、いろんな思いを持ってマラソン大会って出場されると思います。そういう挑戦をする人たちをしっかりと応援して、そして完走してもらう、それを私たちとしてはコンセプトにして、そのためにクリニックを非常に充実させています。いろんな方がクリニックを受けられるようにしていますので、ぜひ参加いただいて、初めてマラソンにチャレンジをしようという方はさいたまマラソンに来ていただいて、完走していただきたいと思います。

### その他：石破総理大臣就任及び新内閣の発足について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。  
先日コメントを出していただいたかと思うんですが、改めて石破総理大

臣が誕生して、石破総理大臣の印象と期待など、あとそれにあわせて新内閣の顔ぶれについての印象と期待などを教えてください。

○ 市長

まず、石破茂内閣総理大臣については、地方創生、それから農林水産、防衛など幅広い政策に精通している方で、政治経験も豊富な政治家であると思います。特に初代の地方創生担当大臣であり、地方の在り方、あるいは地方の将来について見識を持っている方だと感じています。地方と都市部の役割の見直しであるとか東京への一極集中などの課題に対してどのように取り組んでいくのか、大変注目をしているところです。経済対策など国内外に課題が山積していますが、その実行力に期待したいと思っています。

また、新内閣については、初入閣が13人という一方で経験豊かな方を適所に配置して、再入閣、あるいは留任をさせている手堅い内閣だという印象を受けています。また、本市から選出をされている、さいたま市を地盤として活動されている牧原秀樹さんが法務大臣に就任されたことは、市長としても大変うれしく思っているところです。牧原大臣は、厚生労働副大臣、また経済産業副大臣も歴任されていますので、これまで培ってきた経験を生かして、国民目線で法務行政を進めていただくものと期待しています。

### その他：貴景勝関の引退について

○ 埼玉新聞

ありがとうございます。

全く別の話題なんですけれども、先日埼玉栄高校出身の大関貴景勝関が引退を表明されて、学校のところでパレードをやったりとか、さいたま出身ではないですけれども、本市にゆかりのある力士だと思うのですけれども、改めてその引退されるということについてどう感じるか、もしねぎらいの言葉とかあればお願いします。

○ 市長

9月場所をもって引退された貴景勝関におかれては、埼玉栄高校在学中に全国大会で数多くの優勝や連覇を果たすなど、すばらしい活躍を見せてくれた方でもあります。角界に入門後は、強烈な押し相撲を武器にスピード昇進を続け、幕内優勝4回、また30場所において大関を務めるなど、輝かしい実績を残されました。特にけがと闘いながら、各界の中では小柄

な体で力強い相撲を取っている姿は、多くの方々に諦めない心であるとか、  
勇気とか感動を本当に相撲の取り口をもって見せてくれたと思っています。

28歳での引退ということで、いささか寂しい思いもありますが、今後は  
後進の指導に当たられると聞いていますので、貴景勝関のような立派な  
力士、最後まで諦めない、そういった力士を多く育てていただきたいと思  
っています。

○日本経済新聞 質問が出尽くしたようなので、こちらで終わらせていただきます。

記者会見を終了します。ありがとうございました。

○ 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は10月16日水曜日午後1時30分からを予定して  
います。本日はありがとうございました。

午後 2時17分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理した  
ものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）と  
し、下線を付しています。